

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 新賀 (きのこのき)

日付 平成19年3月30日
評価機関 特定非営利活動法人
 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験18年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「第一に個別のケアです」と管理者も主任も口をそろえる。認知症ケアの先駆者として、法人全体が個別ケアを推進している。利用者それぞれが家庭にいた時と同じような生活様式を続けられるようにし、援助が必要な部分を支えていくように心掛けている。それは、利用者一人ひとりが自分の居場所も、自分でしている事も、自由で気ままな様子から伺える。

朝の苦手な人は朝食もゆっくり、夜更かしして本を読んでいたという人もいる。台所を手伝う人もいれば、台所仕事はしたくないので新聞を読むと言う人など様々である。緑や花で飾られた落ち着いた和風建築の中で、それぞれが好きなことをして静かに暮らしている。開設から6年近くが経ち、利用者の症状も重度化が見られ、個別の対応がさらに必要とされてきている。

ホームのもう一つの柱が「ターミナルまでのケア」と言う管理者たちから、熱い信念が伝わってくる。利用者がどんな状態になろうと、環境を変えずに同じ人間関係の中でケアを続け、最後まで安心して過ごしてもらおうとしている。重症化しても、利用者一人ひとりの体調をしっかりと把握して、の時に応じた支援をしてくれる対応は家族にとっても心強い。

ターミナルケアがある一方で、軽症の新たな入居者のレベル低下防止と充実した生活とが如何に保てるか、職員による個別ケアの努力に期待したい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

職員が一人ひとりそれぞれ違った支援をしていることから、ホーム全体が静かで落ち着いた雰囲気ができていると思うが、ほぼ全員が同時に集う食事の時は、職員からもっと積極的に話しかけて、楽しい食事の雰囲気を作っても良いのではないだろうか。料理の味や献立について、テレビの話題など、話題のきっかけを提供してみてもどうか。食事の介助をしながらかでも、会話の出来ない人にも、しっかりと語りかけて食事を楽しんでもらうようにしてもらいたいと思う。

利用者の希望する自由な生活リズムを支援するのは良いと思うが、重症化して寝たきりになってきた人にも、五感での喜びを感じられるような支援をして、少しでも良い精神状態が保てるようにしてあげて欲しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 利用者が家庭にいたときと同じような生活リズムで気ままに過ごせるよう、一人ひとりに応じた個別のケアを大切にしている。利用者の望む生活リズム、居場所など聞き出して、それぞれの人に好きなことをしてもらいながら、その人に応じた支援をあげている。また、利用者の状態が変化していても、家族の協力を得ながら、ケアの環境を変えることなく、最後まで世話をしていくよう努力している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 和風の建物の中は生け花や観葉植物で、落ち着いた雰囲気に作られている。共用スペースから仕切られている個室は、プライバシーが保たれている。一方でリビングからは個室の状況が見えないので、職員が居室へ誘導したり、様子を見に覗いて声をかけたりしている。離れを交流スペースとして利用し、関連施設利用者も呼んで歌会を楽しんでいる。法人敷地内は広く、職員の付き添いで周辺の散歩を楽しむことができる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 利用者の意思を尊重し、その人の好きなリズムで生活してもらい、身体介護や生活リハビリの支援をしている。アセスメントを行いその人の心身の状態を十分把握して計画を立て、詳しい記録をとることにより、適したケアを心掛けている。 開設からの年月が長く、利用者も重症化してきた人も多く、そうした人達には希望を聞いて居場所を変えたりしながら身体ケアが中心となる静かな介護が行われている。また、新しく入居した軽症の人には少しでも活動的に過ごしてもらるように、家事や買物、外出などできるよう支援している。 家庭にいた時のように、我がままとも言えるような利用者の希望に、それぞれの人に対応してあげている職員の努力は素晴らしいと思う。ただ、寝たきりになって自分の意思もはっきりしていない人の場合でも、五感によるコミュニケーションなどによって、少しでも気持ちを察してあげられるよう努力してあげて欲しい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 法人自身が認知症ケアの先駆者として有名であり、代表者を始め管理者、職員がそれぞれ信念を持ってより良いケアを追究している。ホーム内での会議だけでなく、法人内各施設や研修に来る他施設とも意見交換を行い、ホームのケアの質の向上を図っている。 家族へは電話連絡や手紙で情報交換を行い、家族と連携してターミナルケアまでケアしていく努力をしている。 郊外の法人内施設という特殊な立地のため、近隣住民との直接的交流は難しいが、利用者のためには各施設間での交流の機会がある。また、ホームとしてまた法人として多くの研修を受け入れたり、各種機関へ外向いたりして、認知症ケアの向上のために貢献している。		